

The Emerging Market Weekly

国際為替部
 マーケット・エコノミスト
 佐々木 貴彦
 03-3242-7065
 takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
 03-3242-7065
 yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
 03-3242-7065
 amane.saito@mizuho-bk.co.jp

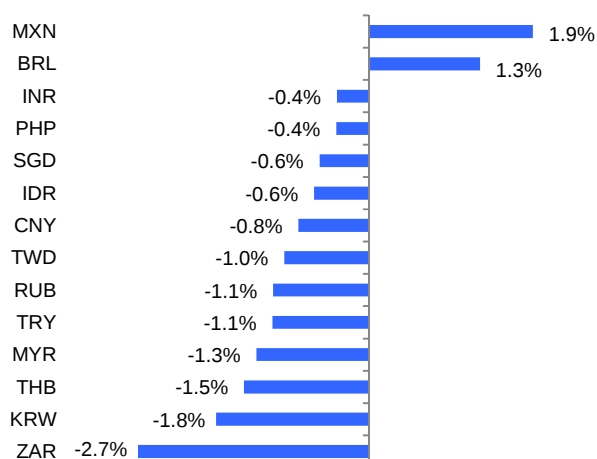
今週のエマージングマーケット

米年内利上げ期待や Hard Brexit 懸念を背景に新興国通貨は下落

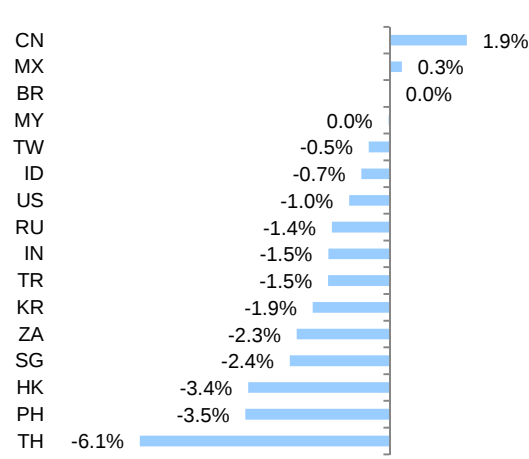
今週の新興国通貨は売り優勢の展開。先週末発表された米 9 月雇用統計は冴えない結果となったが、年内の米利上げ織込に与える影響は限定的だった。週初は米 9 月雇用統計の結果や、米大統領候補による第 2 回テレビ討論会で民主党候補のクリントン氏が優勢との報道を背景に、新興国通貨は底堅い推移を続けた。11 日、EU 単一市場へのアクセスを伴わない英国の EU 離脱 (Hard Brexit) への懸念が浮上し、GBP 及び EUR が下落する中、ドル高が進行したことで新興国通貨は下押しされた。12 日、FOMC 議事要旨 (9 月 20 日 ~ 21 日開催分) が発表され、年内利上げや来年以降の利上げについて明確な示唆はなかったものの、早期の利上げを目指す方向で徐々に合意が形成されつつあることも伺える内容だったため、ドルは堅調に推移し、新興国通貨は続落した。

個別通貨で見ると、南アフリカのゴードン財務相に対し、裁判所が召喚状を出したことが嫌気され、ZAR (▲2.7%) は下落した。また、KRW (▲1.8%) は株式市場からの資金流出や、韓国中銀 (BOK) が経済見通しを引き下げたことなどを背景に売られた。THB (▲1.5%) は、タイ国王の容体悪化報道を受けて週初から軟化した。一方、米大統領選に向けた討論会で、クリントン氏が優勢となったことを受け MXN (+1.9%) は上昇している。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

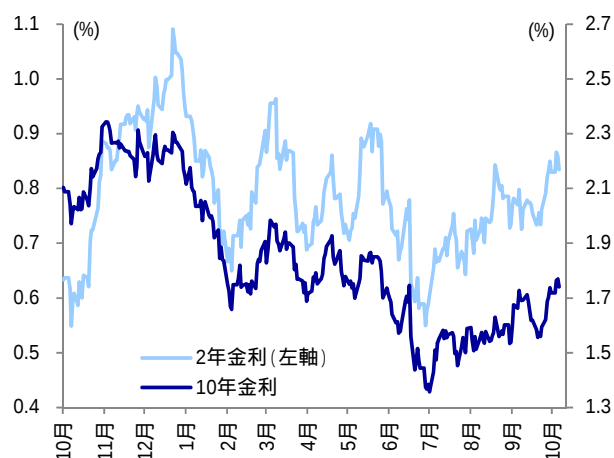
Hard Brexit 懸念の熾りから軟
調推移を予想

来週の新興国通貨は、軟調推移を予想する。今週は原油価格の反落、米利上げ期待の高まり、Hard Brexit に対する懸念の高まりを背景に、多くの新興国通貨は下落した。原油価格は、OPEC による原油生産量の減産合意にロシアも協力するとの期待から週初に上昇した分を戻した後は下げ渋っており、合意が白紙にならない限り、下落余地は限定的と見る。また、FOMC 議事要旨への警戒感から米金利は上昇していたものの、内容は概ね予想範囲内の内容だったため、発表後は低下に転じている。よって、米利上げ期待が高まり続ける可能性は低い。但し、Hard Brexit 懸念は熾り続けるだろう。2 日の Brexit に向けたメイ英首相の所信表明演説後も、ラッド英内相など政権内から移民抑制を重視する発言が相次いでおり、英政府が EU 単一市場へのアクセス確保の代わりに移民を受け入れるという姿勢にすぐ転じる可能性は低い。そのため、来週も GBP が下落し、EUR も連れ安となり、主要通貨市場でドル高が進むことで、新興国通貨は売り優勢の展開が続くと予想する。

国王死去が発表されたことで、
THB は急落リスクを抱える

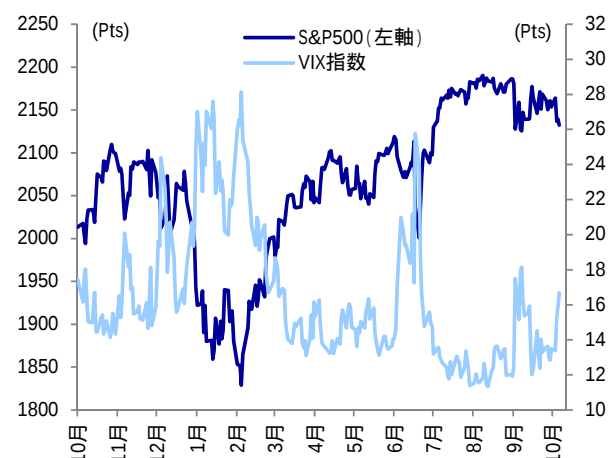
なお、来週は THB の動向が注視される。各政治勢力の橋渡し役であったプミポン国王の容態悪化が 9 日に報じられると、THB は一時 35.90 と 2016 年 1 月以来の安値をつけた。その後は買い戻され、13 日にはタイ王室から国王の死去が発表されたものの、THB は買い優勢の展開が続いている。今後について、プラユット暫定首相は、国王の指名に基づきワチラロンコン皇太子が後を継ぐことを示唆した。皇太子は現政権を運営する軍との関りも深く、政治情勢の混迷化は避けられる可能性が高い。但し、国民から幅広い支持を集めていた国王が死去したことで、今後政局不安が発生した際に橋渡し役が不在になることを懸念する向きもある。斯かる状況下、来週の THB が安定推移を続けられるかどうか注目が集まる。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

インドネシア：金融政策決定会合プレビュー

前回の利下げ効果を見極めるため
に据え置きか

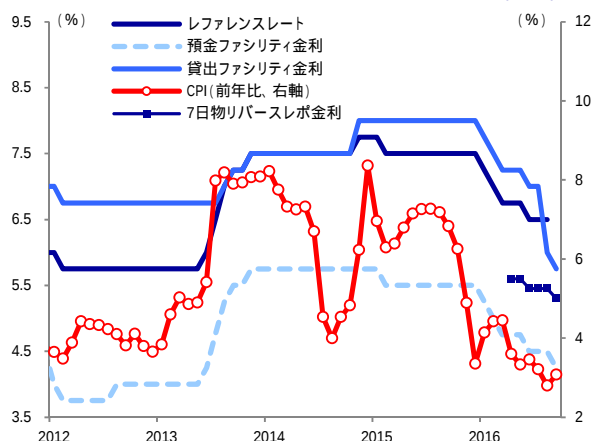
20日(木)に開催されるインドネシア中銀(BI)の金融政策決定会合では、政策金利の据え置きを予想する。BIは前回会合(9月22日)にて25bpの利下げを決定した。声明文では、利下げの理由にインフレ率の低下や経常赤字が抑制されていること、ルピア相場が安定していることが指摘されている。また、景気認識について、底堅い個人消費を背景に7~9月期の成長率は良好だが、設備投資に改善の兆しが見られないことなどもあり、BIの事前予想よりも弱いとの認識を示した。会合後に発表された経済指標を見ると、9月製造業PMIは50.9と景気拡大/縮小の境目となる50を上回っており、インドネシア経済は拡大基調を維持している模様だ。また、9月消費者物価指数(CPI)は小幅に加速しており、ファンダメンタルズに鑑みると追加利下げを行う必要性は小さいだろう。もっとも、10月6日にBI上級副総裁が「ルピア相場の安定や経常収支の改善、商品価格の回復によって追加緩和余地がある」と発言するなど、BIは金融緩和姿勢を維持している。そのため、追加利下げの可能性は燦るが、我々はBIが前回利下げの影響を見極めるためにも現状維持を決定すると予想している。

トルコ：金融政策決定会合プレビュー

CPI減速を背景に金利コリドー上限
を引き下げか

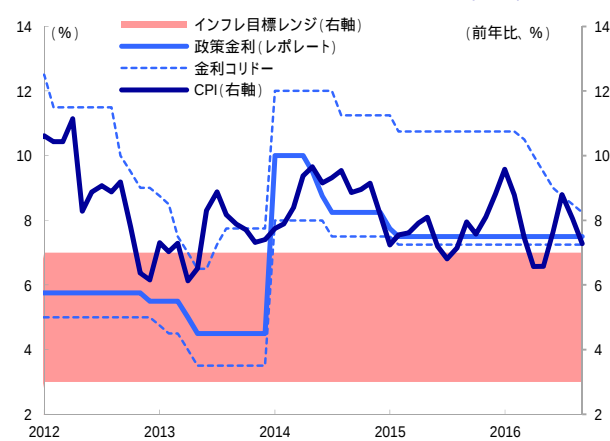
20日(木)に開催されるトルコ中銀(CBRT)の金融政策決定会合では、政策金利のレポレートは7.50%で据え置かれるも、金利コリドーの上限であり、市場金利が連動する翌日物貸出金利は25bp引き下げられ、8.00%になると予想する。前回会合(9月22日)では、レポレートとコリドー下限である翌日物借入金利は7.25%に据え置かれる一方、翌日貸出金利は25bp引き下げられ8.25%となった。そのため、コリドーは1.25%ポイントから1.00%ポイントに縮小した。声明文では、消費の低迷を背景にCPIが減速する中、国内景気を下支えるためにコリドー上限を引き下げたと述べた。3日に発表されたトルコ9月CPIは前年比+7.3%と8月(同+8.1%)から

図表3：インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表4：トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

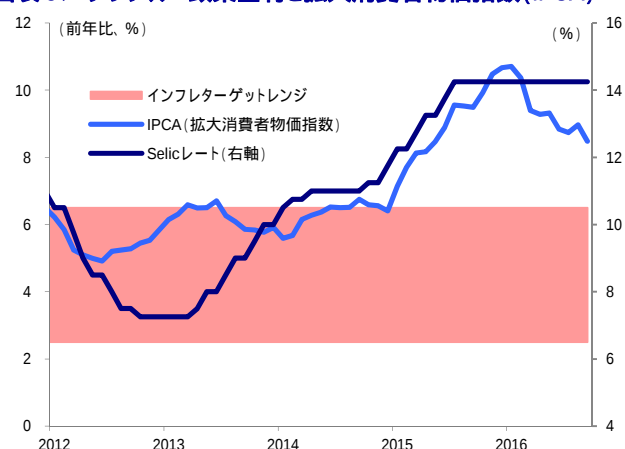
減速したが、依然として CBRT のインフレ目標（+3～7%）を上回っている。しかし、CBRT は前回会合で、金融システムの状況は「引き締まっている」との見方を示しており、景気の下支えを図るために金利コリドーの上限の更なる引き下げが必要と考えていることが伺えた。そのため、9 月 CPI が減速したことを理由に、CBRT は今回会合でも金利コリドーの上限を引き下げると予想する。

ブラジル：金融政策決定会合プレビュー

インフレ率の減速を背景に BCB は 25bp 利下げか

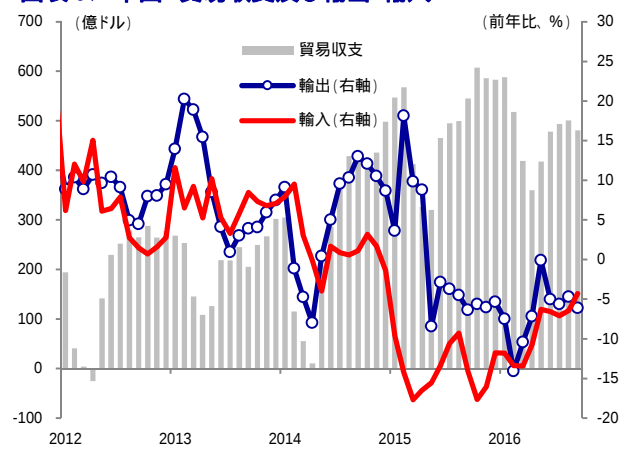
20 日（木）に開催されるブラジル中銀（BCB）の金融政策決定会合では政策金利が 25bp 引き下げられ、14.00%になると予想する。前回会合（8 月 31 日）では、BCB が政策金利を 14.25%に据え置いた。声明文では、経済活動は緩やかに回復する兆しを見せていると述べた。また、金融政策変更の条件として、食品価格上昇によるインフレ加速の影響が限定されること、金融政策や経済活動からの影響を強く受ける拡大消費者物価指数（IPCA）の項目が適切なペースでインフレ減速傾向を見せること、財政健全化の実施などに関する不確実性が低下することの 3 点を挙げた。7 日に発表されたブラジル 9 月 IPCA は前年比+8.5%と 8 月（同+9.0%）から減速し、2015 年 5 月以来の低水準となった。また、BCB が懸念している食品価格についても 9 月（同+13.3%）は 8 月（同+13.9%）から減速している。このほか、10 日には歳出上限を抑制する法案が下院で可決され、財政健全化に向けて進展が見られた。斯かる状況下、BCB は今回の会合で利下げに踏み切ると予想する。一方で、ゴールドファイン BCB 総裁は「物価動向はデスインフレの進行を示しているが、スピードはなお不透明だ」と発言しており、メイレス財務相も「物価の下振れ傾向が長期的に続くかどうかはまだはっきりしていない」と述べ、物価の先行きに対し慎重な姿勢を見せている。そのため、前回の利下げ局面（2011 年）時では

図表 5: ブラジル 政策金利と拡大消費者物価指数(IPCA)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: 中国 貿易収支及び輸出・輸入



(注) 貿易収支及び輸出・輸入ともに 3 か月移動平均

(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

50bp 単位で政策金利を変更することが多かった BCB だが、今回の利下げ幅は 25bp に止まると考える。今後インフレの減速が続くようであれば、BCB は追加利下げを実施するだろう。

中国：輸出が市場予想を大きく下回る結果に

PBoC による通貨安政策では、外需の減少を埋めきれず

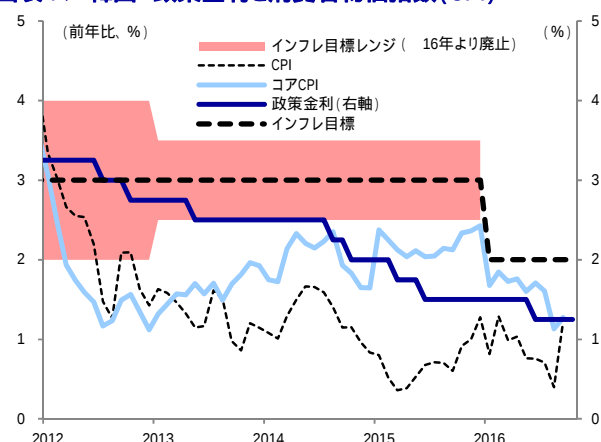
13 日に発表された中国 9 月貿易統計では、輸出が外需の落ち込みを背景に前年比 ▲10.0% と市場予想（同 ▲3.3%）を大きく下回り、2016 年 2 月以来の低水準となった。中国人民銀行（PBoC）は輸出振興を図るために人民元の実効レートを下落させてきたものの、外需の落ち込みを埋め合わせられなかった模様だ。但し、今回の結果は中国の主要輸出先である米国の景況感が一時的に悪化した影響があったと見る。中国の輸出は、米 ISM 製造業景気指数の上昇・下落に 1~2 か月ほど遅れて、加速・減速する傾向がある。そのため中国 9 月輸出は、米 8 月 ISM 製造業景気指数が 49.4 と 7 月（52.6）から大きく悪化した影響が出ていると考える。その後、米 9 月 ISM 製造業景気指数は 51.5 と持ち直していることから、中国 10 月輸出はマイナス幅が縮小すると予想する。もっとも、米製造業も 2013 年から 2014 年に見られたような力強さはなく、中国の輸出も大きく改善するとは見込みがたい。そのため、冴えない外需が 10~12 月期の GDP 成長率を下押しする可能性が高まっていると言えよう。

韓国：金融政策決定会合レビュー

市場予想通り政策金利は据え置き

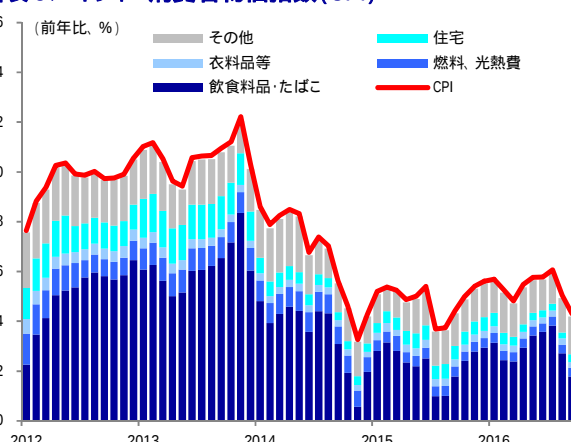
13 日に開催された金融政策決定会合にて韓国中銀（BOK）は市場予想通り、4 会合連続で政策金利を 1.25% に据え置いた。声明文では、世界貿易の緩やかな回復と、政府の拡張的な財政政策を背景に韓国経済は徐々に持ち直していくとの見通しを示した。なお、足許の経済動向については、輸出は減速したが、建設投資を中心として内需は回復基調にあると述べた。また、

図表 7：韓国 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 8：インド 消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

インフレの見通しについては、前回会合（9月9日）では低水準で推移する可能性に触れていたが、今回の会合では次第に加速していくと見通しを変えている。実際、韓国9月CPIは前年比+1.2%と8月（同+0.4%）から食品価格が上昇したことを背景に加速した。今後もCPIが加速するとの見通しに加え、BOKは引き続き家計債務の積み上がりも懸念しているため、当面の間BOKは政策金利を据え置くと考える。

インド：CPIは2か月連続で減速

低インフレ率によりRBIには追加緩和余地が生じる

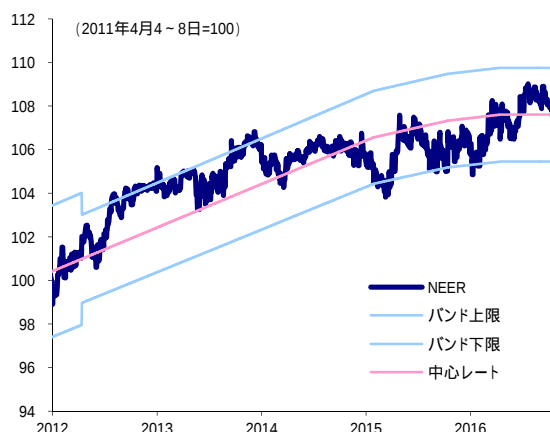
13日に発表されたインド9月CPIは前年比+4.31%と9月（同+5.05%）から2か月連続で減速し、2015年8月以来の低水準となった。内訳を見ると、油脂類や砂糖類、加工食品などで小幅に価格が上昇している。一方、野菜（8月：同+1.0%→9月：同▲7.2%）が減速に転じたことや穀類（8月：同+5.8%→9月：同+4.1%）の伸びが縮小したことで、飲食料品（8月：同+5.9%→9月：同+3.9%）のインフレ率が大きく減速した。背景にはモンスーン期（雨期）における平年並みの降水量を受けて、農業生産が順調なことがある模様だ。インド準備銀行（RBI）によるとカリフ期（作期）の作付けも昨年を上回っている模様で、今後も農業生産の拡大と食料品価格の抑制が期待される。そのため、2017年3月末までにインフレ率を前年比+5%に抑制するというRBIの物価目標は達成される可能性が高まっている。RBIは2015年1月以降に景気下支えを理由に断続的に利下げを行ってきたが、インフレ率の落ち着きを受けて、追加緩和余地が生じていると言える。

シンガポール：金融政策決定会合レビュー

MASは市場予想通り、現状維持を決定

14日に開催されたシンガポール通貨庁（MAS、中央銀行）の金融政策決定会合では、政策の対象であるSGDの名目実効為替レート（NEER）につ

図表9：シンガポール 名目実効為替レート



(注)MASはSGD名目実効為替レート及びSGD高誘導ベースの具体的な数値を発表していない。そのため、データはみずほ銀行試算。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表10：シンガポール 実質GDP

		2015年		2016年	
		4Q	1Q	2Q	3Q
前期比年率(%)	実質GDP	6.2	0.1	0.2	-4.1
	製造業	-4.9	18.8	2.1	-17.4
	建設業	6	2.7	1.1	0.5
	サービス業	7.7	-5.1	-0.9	-1.9
前年比(%)	実質GDP	1.8	2	2	0.6
	製造業	-6.7	-0.5	1.4	-1.1
	建設業	4.9	4.3	2.6	2.5
	サービス業	2.8	1.6	1.2	-0.1

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

いて、上下どちらにも誘導しない中立スタンスの維持が決定された。また、NEER の変動幅及び中心レートについても現状水準で据え置いている。声明文では、2016 年の GDP 成長率は予想レンジ（+1.0%～2.0%）下限に近い水準となり、2017 年の成長率は 2016 年から小幅にしか加速しないとした。インフレについては、年内のコア CPI は+1.0%近辺と足許の水準でほぼ横ばい、2017 年に入っても+1.0%～2.0%のレンジ内に収まるとしている。低成長、低インフレが続くとの見方を示しながらも、金融政策を維持した理由として、現状の金融政策は十分緩和的であり、当面の景気弱含みには対処できるとした。MAS は景気を下支えするため、過去に中立スタンスを維持しながら、中心レートを SGD 安方向に切り下げたことがあるが、IT バブル崩壊やリーマンショックなど、世界経済が大きく減速した際にしか実行していない。そのため、今後についても世界経済が大きく落ち込まない限り、MAS は現状の金融政策を維持すると考える。

シンガポール：7～9 月期 GDP は前期比でマイナス成長に

製造業の落ち込みが、7～9 月期 GDP を下押し

同日に発表されたシンガポール 7～9 月期 GDP は、前期比年率 ▲4.1%と市場予想（±0.0%）を大きく下回り、4～6 月期（同+0.3%）から大幅に減速した。外需の落ち込みを背景に製造業が（4～6 月期：同+2.1%→7～9 月期：同 ▲17.4%）減速に転じたことが影響した模様だ。シンガポールの輸出規模は GDP 対比で約 2 倍と他国と比べても大きく、世界経済の鈍化による悪影響を受けやすい。IMF が 4 日に発表した世界経済見通しでは、2016 年の世界貿易量は前年比+2.3%と 2015 年（同+2.6%）から減速する見込みであり、年内のシンガポール経済は低迷を続ける可能性が高い。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
10月7日 (金)	マレーシア	8月 貿易収支MYR	6.60b	8.51b	1.91b	--
7日 (金)	台湾	9月 貿易収支	\$3.92b	\$4.37b	\$3.99b	--
8日 (土)	中国	9月 Caixin中国PMI非工業	--	52.0	52.1	--
11日 (火)	フィリピン	8月 貿易収支	-\$2014m	-\$2023m	-\$2053m	-\$2058m
12日 (水)	マレーシア	8月 鉱工業生産(前年比)	5.4%	4.9%	4.1%	--
13日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レート	1.25%	1.25%	1.25%	--
13日 (木)	中国	9月 貿易収支	\$53.00b	\$41.99b	\$52.05b	--
13日 (木)	インド	9月 消費者物価指数(前年比)	4.6%	4.3%	5.1%	--
14日 (金)	シンガポール	3Q GDP(前年比)	1.8%	0.6%	2.1%	2.0%
14日 (金)	中国	9月 消費者物価指数(前年比)	1.6%	1.9%	1.3%	--
14日 (金)	インド	9月 卸売物価(前年比)	3.9%	--	3.7%	--
14~15日	中国	9月 新規貸出(人民元)	1000.0b	--	948.7b	--
14~15日	中国	9月 M2(前年比)	11.6%	--	11.4%	--
14~17日	インド	9月 貿易収支	-\$8527.5	--	-\$7674.1	--
14~18日	中国	9月 海外直接投資	3.2%	--	5.7%	--
17日 (月)	シンガポール	9月 非石油地場輸出(前年比)	--	--	0.0%	--
17日 (月)	インドネシア	9月 貿易収支	--	--	\$294m	--
17日 (月)	フィリピン	8月 海外送金(前年比)	--	--	-5.4%	--
19日 (水)	中国	9月 鉱工業生産(前年比)	6.4%	--	6.3%	--
19日 (水)	中国	9月 小売売上高(前年比)	10.7%	--	10.6%	--
19日 (水)	中国	9月 固定資産投資	8.2%	--	8.1%	--
19日 (水)	中国	3Q GDP(前年比)	6.7%	--	6.7%	--
19日 (水)	マレーシア	9月 消費者物価指数(前年比)	--	--	1.5%	--
19日 (水)	フィリピン	9月 総合国際収支	--	--	\$682m	--
20日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行 預金ファシリティレート	--	--	5.00%	--
中東欧・アフリカ						
10月11日 (火)	南アフリカ	8月 製造業生産(季調済/前月比)	0.4%	-1.0%	-1.5%	-1.9%
11日 (火)	ロシア	3Q 経常収支	200m	1900m	1459m	--
12日 (水)	トルコ	8月 経常収支	-1.40b	-1.78b	-2.60b	-2.65b
12日 (水)	ロシア	8月 貿易収支	6.8b	4.9b	6.5b	--
13日 (木)	南アフリカ	8月 鉱物生産量(前年比)	-4.0%	-0.2%	-5.4%	--
17~18日	ロシア	9月 鉱工業生産(前年比)	0.4%	--	0.7%	--
19日 (水)	南アフリカ	9月 消費者物価指数(前年比)	--	--	5.9%	--
19日 (水)	南アフリカ	8月 小売売上高(実質値、前年比)	--	--	0.8%	--
20日 (木)	トルコ	指標レート	--	--	7.50%	--
20日 (木)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	8.25%	--
20日 (木)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
21日 (金)	トルコ	10月 消費者信頼感指数	--	--	74.3	--
ラテンアメリカ						
10月7日 (金)	ブラジル	9月 IBGEインフレ率IPCA(前年比)	8.6%	8.5%	9.0%	--
7日 (金)	メキシコ	9月 消費者物価指数(前年比)	2.9%	3.0%	2.7%	--
12日 (水)	メキシコ	8月 鉱工業生産(前年比)	1.0%	0.3%	-1.0%	-1.3%
18日 (火)	ブラジル	8月 広義小売売上高(前月比)	--	--	-0.5%	--
19~20日	ブラジル	SELICレート	--	--	14.25%	--
19~20日	ブラジル	8月 経済活動(前年比)	--	--	-5.2%	--
21日 (金)	ブラジル	10月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	8.8%	--

(注)2016年10月14日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～9月(実績)	SPOT	2016年 12月	2017年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4528 ~ 6.7318	6.7274	6.70	6.69	6.67	6.65	6.63
香港ドル	(HKD)	7.7488 ~ 7.8295	7.7575	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071 ~ 68.789	66.936	68.8	66.8	65.0	64.0	63.0
インドネシアルピア	(IDR)	12886 ~ 14002	13073	13200	12800	12500	12650	12600
韓国ウォン	(KRW)	1089.72 ~ 1245.13	1135.85	1120	1110	1100	1090	1080
マレーシアリング	(MYR)	3.8442 ~ 4.4415	4.2125	4.10	3.90	3.85	3.88	3.85
フィリピンペソ	(PHP)	45.860 ~ 48.713	48.440	47.5	46.9	46.2	45.9	45.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3313 ~ 1.4444	1.3818	1.36	1.35	1.33	1.32	1.31
台湾ドル	(TWD)	31.006 ~ 33.791	31.778	31.90	31.70	31.40	31.10	30.90
タイバーツ	(THB)	34.49 ~ 36.42	35.38	35.0	34.4	34.0	33.7	33.7
ベトナムドン	(VND)	22059 ~ 22535	22303	22380	22200	22150	22250	22230
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	61.8332 ~ 85.9573	63.0355	64.50	63.00	63.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.2008 ~ 17.9169	14.2558	15.50	16.50	17.00	17.00	16.50
トルコリラ	(TRY)	2.7901 ~ 3.1131	3.0856	3.20	3.30	3.40	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.1141 ~ 4.1720	3.1787	3.35	3.41	3.44	3.47	3.50
メキシコペソ	(MXN)	17.0507 ~ 19.9333	18.9552	19.50	18.90	18.50	18.10	17.70
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	14.964 ~ 18.563	15.399	14.63	14.50	14.39	14.29	14.18
香港ドル	(HKD)	12.835 ~ 15.615	13.360	12.63	12.50	12.37	12.24	12.11
インドルピー	(INR)	1.468 ~ 1.823	1.548	1.42	1.45	1.48	1.48	1.49
インドネシアルピア	(100IDR)	0.740 ~ 0.896	0.793	0.742	0.758	0.768	0.751	0.746
韓国ウォン	(100KRW)	8.488 ~ 10.267	9.178	8.75	8.74	8.73	8.72	8.70
マレーシアリング	(MYR)	24.173 ~ 29.357	24.669	23.90	24.87	24.94	24.48	24.42
フィリピンペソ	(PHP)	2.072 ~ 2.570	2.149	2.06	2.07	2.08	2.07	2.07
シンガポールドル	(SGD)	72.61 ~ 85.54	75.00	72.06	71.85	72.18	71.97	71.76
台湾ドル	(TWD)	3.077 ~ 3.671	3.261	3.07	3.06	3.06	3.05	3.04
タイバーツ	(THB)	2.814 ~ 3.412	2.929	2.80	2.82	2.82	2.82	2.79
ベトナムドン	(100VND)	0.4466 ~ 0.5482	0.4646	0.44	0.44	0.43	0.43	0.42
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ~ 1.718	1.644	1.52	1.54	1.52	1.58	1.57
南アフリカランド	(ZAR)	6.397 ~ 7.805	7.271	6.32	5.88	5.65	5.59	5.70
トルコリラ	(TRY)	32.990 ~ 41.265	33.582	30.63	29.39	28.24	27.14	26.86
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ~ 32.973	32.603	29.25	28.45	27.91	27.38	26.86
メキシコペソ	(MXN)	5.024 ~ 7.018	5.468	5.03	5.13	5.19	5.25	5.31

(注)1. 実績の欄は9月30日まで。SPOTは10月14日の7時50分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。